日高市 地震 ハザードマップ

地震ハザードマップとは

日高市では、地震の被害からみなさんの大切な生命や財産を守るために、「揺れやすさ」「建物倒壊危険度」、また避難場所の情報を示した地震ハザードマップを作成しました。このマップによりお住まいの地域の状況をご確認いただき、家具の転倒防止や建物の耐震化、避難所への避難方法の確認など、日頃からの備えにご活用ください。

わが家の防災メモ

近くの避難場所1	家族の集合場所
近くの避難場所2	災害時の連絡先
近くの避難場所3	その他の連絡先

■ 家族・親戚の連絡先

名　前	血液型	電話番号	会社・学校名	会社・学校の連絡先
	型			
	型			
	型			
	型			
	型			

日高市役所 〒350-1292 日高市大字南平沢1020番地
電話：042-989-2111　FAX：042-989-2316　HP：http://www.city.hidaka.lg.jp/

発行:平成27年3月

地震ハザードマップとは

地震ハザードマップとは、地震災害に関する情報と避難方法などを市民のみなさんに提供することにより、日頃からの防災意識を高めるとともに、いざという時に避難行動がスムーズに行われ、被害を最小限にすることを目的とした地図です。

埼玉県の地震想定をもとに、8つの地震・破壊開始点による地震動を重ね合わせて最大の地震動を算出した結果をもとに、日高市地震ハザードマップとして作成しています。

埼玉県地震被害想定調査について

埼玉県では、東日本大震災を踏まえ平成24･25年度に新たな地震被害想定調査を実施いたしました。

首都直下地震に係る最新の科学的知見や埼玉県における過去の被害地震を踏まえ、5つの地震（活断層による地震動の推計は、地震による破壊開始の始まる位置の設定で、震度分布が大きく異なるため複数パターンを想定）を想定地震として、地震に関する項目、それによる各種の災害、被害、影響などを予測しました。

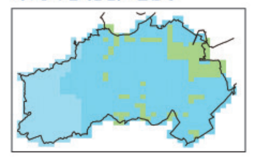
■ 海溝型地震

茨城県南部地震

- ●海溝型地震
- ●マグニチュード7.3
- ●日高市における最大震度：5弱

フィリピン海プレート上面の震源の深さに関する最新の知見を反映。今後30年以内に南関東地域でM7級の地震が発生する確率：70%

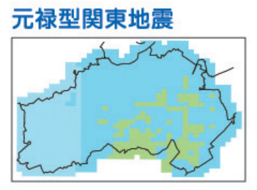
東京湾北部地震



- ●海溝型地震
- ●マグニチュード7.3
- ●日高市における最大震度：5強

フィリピン海プレート上面の震源の深さに関する最新の知見を反映。今後30年以内に南関東地域でM7級の地震が発生する確率：70%

元禄型関東地震

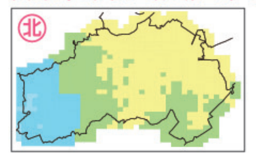


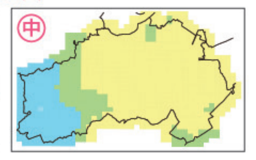
- ●海溝型地震
- ●マグニチュード8.2
- ●日高市における最大震度：5強

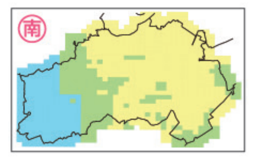
1703年に発生した、首都圏に大きな被害をもたらしたとされる巨大地震（マグニチュード8.0）を想定（相模湾～房総沖）。今後30年以内の地震発生確率：ほぼ0%

■ 活断層型地震

関東平野北西縁断層帯地震



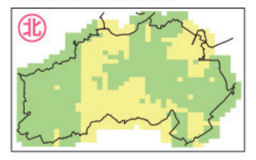


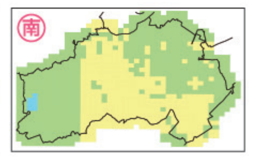


- ●活断層型地震
- ●マグニチュード8.1
- ●日高市における最大震度：北・中・南＝6弱

深谷断層と綾瀬川断層を一体の断層帯として想定。今後30年以内の地震発生確率：ほぼ0%～0.008%

立川断層帯地震





- ●活断層型地震
- ●マグニチュード7.4
- ●日高市における最大震度：北・南＝6弱

最新の知見に基づく震源条件により検証。
今後30年以内の地震発生確率：0.5%～2%

震度3　震度4　震度5弱　震度5強　震度6弱

マップの種類

■ 揺れやすさマップ

「揺れやすさ」は、地盤の状況とそこで起こりうる地震（想定地震）の両面から、地域の揺れやすさを震度として評価したものです。

・地域の予想される揺れ（最大震度）を250m単位で分割したメッシュ（網目）ごとに表示

■ 建物倒壊危険度マップ

「建物倒壊危険度」は、「揺れやすさ」をもとに、建物の構造や建築年次などの地域データを合わせることにより被害を計算し、予想される建物被害の割合を相対的に評価したものです。

・地域の建物の全壊棟数率を250m単位で分割したメッシュごとに表示

※地震発生時に地図に表示された状況が実際に発生することを示すものではありません。地震の震源や規模等によって、地図上で危険が少ないと表示された地域においても危険な状況になることも考えられます。

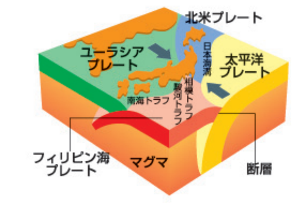
地震のメカニズム

日本列島の周辺には4つのプレート（板状の硬い岩盤）があり、それぞれが別の方向に年に数センチの速度で動いています。プレートどうしの運動により、プレートの境界や周辺で生じる「ひずみ」が地震を引き起こす原因です。日本では主に海溝型と活断層型の2種類の地震が起こっています。

地震発生のしくみ

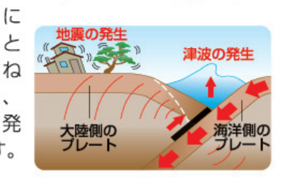
■ 日本周辺のプレートの状況

異なるプレートが接しているところ（二つの面の境界）を断層といいます。



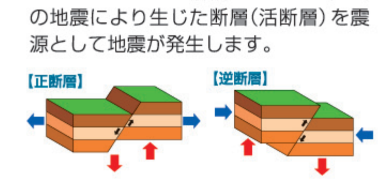
■ 海溝型地震

海洋側のプレートの沈み込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、境界に「ひずみ」がたまり、限界に達すると元に戻ろうとしてはね上がり、地震が発生します。



■ 活断層型地震

陸地の岩盤もプレートの運動により、いたるところで「ひずみ」が生じています。このひずみを解消するため、過去の地震により生じた断層（活断層）を震源として地震が発生します。



マグニチュードと震度

■ マグニチュードとは？

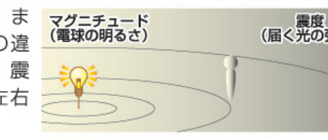
マグニチュード（以下Mと表記）は、地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

■ 震度とは？

震度は、地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけでなく、震源からその地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

■ マグニチュードと震度の関係

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと届く光の強さとの関係に例えられます。同じ電球からの光でも、どの位置にいるかで明るさは異なるように、マグニチュードが同じ地震でも、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。また、地盤の質の違いによっても、震度の大きさは左右されます。



■ 震度と揺れ等の状況（概要）

0【震度0】人は揺れを感じない。

1【震度1】屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

2【震度2】屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

3【震度3】屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

4【震度4】
- ●ほとんどの人が驚く。
- ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- ●座りの悪い置物が、倒れることがある。

5弱【震度5弱】
- ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- ●棚にある食器類や本が落ちることがある。
- ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強【震度5強】
- ●物につかまらないと歩くことが難しい。
- ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- ●固定していない家具が倒れることがある。
- ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱【震度6弱】
- ●立っていることが困難になる。
- ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い　耐震性が低い

6強【震度6強】
- ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い　耐震性が低い

7【震度7】
- ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

耐震性が高い　耐震性が低い

震災時の注意

あわてでむやみに行動するとかえって危険です。緊急地震速報を活用したり、報道等で正しい情報を入手し、冷静に状況を判断して的確な行動をしましょう。

地震発生！そのときどうする？

■ まず身の安全を

頭を保護し、丈夫な机の下などに身を隠します。家具の転倒や落下物には十分に注意します。

■ すばやく火の始末

動けるようであれば、すばやくガスやストーブなどの火を消し、元栓を締めます。万一出火しても天井に燃え移る前に、あわてず消火をします。

■ 戸を開けて出口の確保

揺れでドアが開かなくなることもあります。玄関、部屋のドア、窓などを開けて避難口を確保します。

■ あわてて外に飛び出さない

急に外に飛び出して交通事故に遭ったり、外ではガラスや瓦などが落ちてくることがあります。冷静に状況を判断します。

■ ガラスの破片に注意

室内に、ガラスの破片や危険物が散乱しているときには、スリッパなどの室内履きで行動しましょう。

■ 近くにケガ人がいたら

地域ぐるみで助け合い、救出活動や応急救護に協力します。お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合います。

周囲の状況に応じて

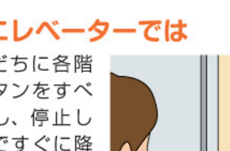
■ 人が大勢いる施設では

あわてて出口に走り出さないで、係員の指示に従って落ちついて行動します。

■ 路上や街中にいた場合

ブロック塀や自動販売機の転倒、看板やガラスの落下に注意します。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手で頭を守り、近くの公園や広い場所に避難します。

■ エレベーターでは



ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降ります。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めます。

■ 自動車運転中は

大きな揺れを感じたら、あわててスピードを落とさずに、ハザードランプを点灯させてまわりの車に注意を促します。急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とし、道路の左側に停止します。

■ 鉄道・バス乗車中は

つり革や手すりにしっかりつかまります。停車後は、係員の指示に従って落ちついて行動します。

出火したら

■ 協力して初期消火

火の小さい初期段階であれば、自分たちの手で消火できます。周囲の人に大声で知らせて、備えてある消火器の他に風呂の残り湯なども利用し、協力して消火しましょう。天井に火が燃え移ったら危険です。身の安全のため、すばやく避難しましょう。

正確に情報を伝えるためには

■ 情報伝達の4原則

1. 何を伝えるのかを明確にして、情報の優先順位を考えましょう。
2. （いつ、どこで、なにが、なぜ、どのように）を明確にして、分りやすい内容にしましょう。
3. 正確な情報だけ伝えましょう。
4. 情報の出所を明確にしましょう。

インターネットを利用した情報収集

災害時に備える……防災知識をインターネットで入手

■ 日高市ホームページ

【災害や事故などへの備えに関する情報が掲載されています】
http://www.city.hidaka.lg.jp/

■ 総務省消防庁「防災・危機管理 eーカレッジ」

【災害の備えや基礎知識などを学ぶことができます】
http://open.fdma.go.jp/e-college/

■ 総務省消防庁「生活密着情報」

【非常持ち出し袋に必要な品目などがイラスト入りで掲載されています】
http://www.fdma.go.jp/html/life

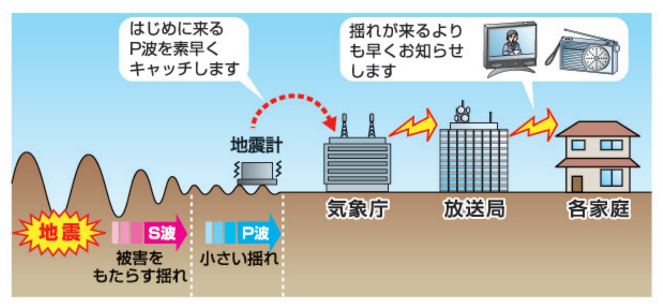
■ 消防防災博物館

【消防防災に関する知識などを提供する総合サイトです】
http://www.bousaihaku.com/

緊急地震速報

地震の際は、P波と呼ばれる小さな揺れの後、S波と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえ、地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れのS波が来る数秒から数十秒前に発表するものです。震度4以上の揺れがあると予測された地域に、テレビやラジオを通じて気象庁が発表します。

この緊急地震速報は、震源の近くでは大きな揺れに間に合わないこともあります。予測震度で、プラスマイナス1程度の誤差もあります。わずかな時間を活かし、地震の被害を減らすことができるものとして、開始されました。



災害用伝言ダイヤル……被災地域内やその他の地域の方々との「声の伝言板」です

＊「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
＊録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
＊提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

被災地内の方も、被災地以外の方も、被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

伝言の録音方法
171にダイヤルする
▼ガイダンスが流れます
録音の場合 1
▼ガイダンスが流れます
(042)×××-××××

伝言の再生方法
171にダイヤルする
▼ガイダンスが流れます
再生の場合 2
▼ガイダンスが流れます
(042)×××-××××

携帯電話 災害用伝言板サービス

震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・PHSを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。

それぞれの携帯電話・PHSの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択してください。

他社携帯・PHSおよびパソコンなどからも、家族や友人の安否情報をご確認いただけます。

- NTT ドコモ…… http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
- au by KDDI…… http://dengon.ezweb.ne.jp/
- ソフトバンクモバイル…… http://dengon.softbank.ne.jp/
- ワイモバイル…… http://dengon.emnet.ne.jp/
- ワイモバイル（PHS）…… http://dengon.willcom-inc.com

災害用伝言板（web171）

災害用伝言板（web171）は、インターネットを利用した安否確認伝言板です。パソコン、スマートフォン、携帯電話等、インターネット接続が可能であれば、どの端末でもご利用可能です。

https://www.web171.jp へアクセス もしくは**web171**で検索 ▶ 規約を読み、「同意する」を選択 ▶ 被災地の人の電話番号を、市外局番から入力 ▶ 伝言を登録・確認

携帯電話･PHS･加入電話･ISDN･ひかり電話･IP電話等、全ての電話番号で登録が可能です。

災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板の体験利用期間
災害用伝言ダイヤル（171）、災害用伝言板（web171）、携帯電話の災害用伝言板は、右記の期間に体験利用できます。

- ●毎月1日･15日
- ●正月三が日（1月1日～3日）
- ●防災週間（8月30日～9月5日）
- ●防災とボランティア週間（1月15日～21日）

日頃の備え･地域ぐるみの防災活動

日頃からの心がけ

■ 家族会議を開きましょう

日頃から家族会議を開き、震災時の連絡方法や、家族の役割分担、避難時にはぐれても落ち合える集合場所や避難場所を確認しておきましょう。

■ 家族の役割分担を

避難する時に持ち出す荷物の分担や、火の始末をする係、電源（ブレーカー）やガスの元栓を締める係、高齢者の安全を守る係などを決めましょう。

■ 避難場所と避難経路の確認を

自宅や学校・勤務先から避難場所への避難経路も確認しておきましょう。平常時には実際に歩いて安全に通行できるかを確認しておきましょう。

■ 連絡方法をきめておきましょう

災害時の家族等との連絡先は、遠くの親せきなど、事前に家族内で決めておきましょう。また、災害用伝言ダイヤルを活用することで、安否などに関する伝言を録音、再生することができます。

非常用持出品・備蓄品の用意を

■ 非常用持出品

避難する時の荷物は必要最小限とし、食糧は調理の手間や水をあまり使わないレトルトなどを選びましょう。予備の乾電池も忘れずに。

■ 備蓄品

非常食（最低3日分）：飲料水（1人分1日あたり3リットルが必要とされています）、レトルト食品、かんづめ、カンパン、粉ミルク

貴重品：印鑑、現金（小銭）、保険証、通帳

衣類：セーター、レインコート、靴下、下着、手袋

医薬・衛生用品：胃腸薬 鎮痛剤、キズ薬、消毒液、包帯、ガーゼ、脱脂綿、ばんそうこう、はさみ、ピンセット、マスク、タオル、紙おむつ、洗面具、ちり紙、携帯トイレ

生活用品：ラジオ、予備電池、懐中電灯、ローソク、ライター、使い捨てカイロ、缶きり、ナイフ、簡易食器、ラップ、ビニール袋、筆記具、毛布、笛、ロープ、スニーカー、ヘルメット

自主防災組織への参加

大規模な災害が発生したとき、交通網の寸断、同時に発生する火災などにより、市・警察署・消防署等の公共機関が十分に対応できない可能性があります。また、それぞれの家庭がバラバラに活動していては、地域の混乱は一層ひどくなります。そんなときに力を発揮するのが、「地域ぐるみの防災活動」**自主防災組織**です。いざというときに備えて、自治会活動の一環として自主防災組織に参加しましょう。

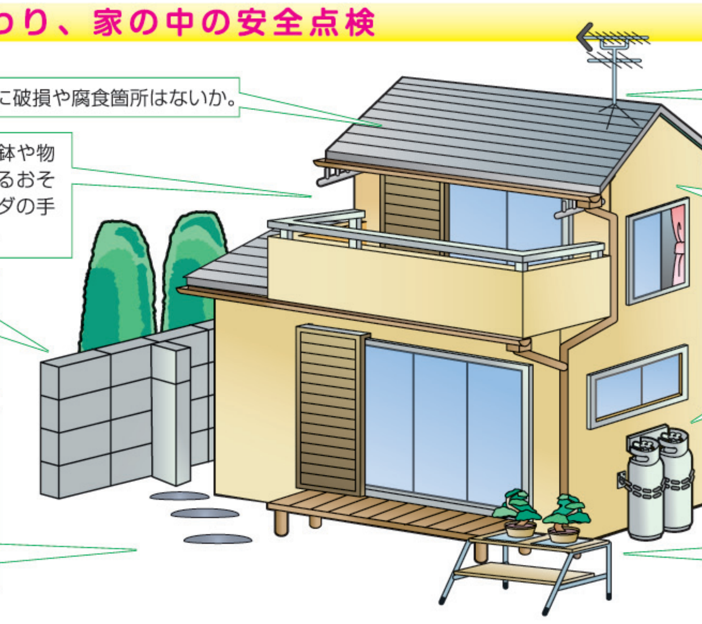
避難行動要支援者への協力

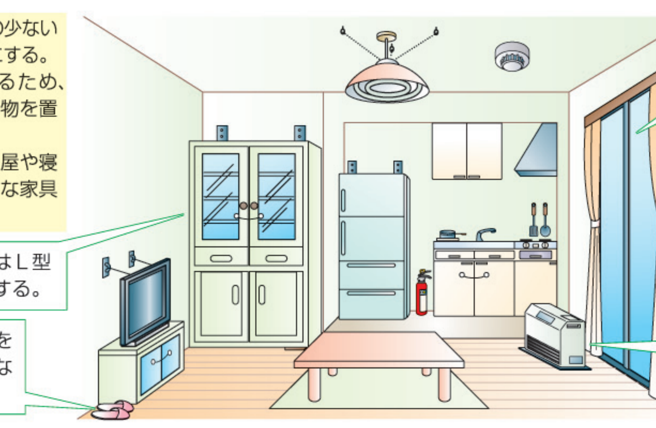
高齢者･障がい者･妊産婦･乳幼児･傷病者･日本語が不自由な外国人の方たちは、災害時の避難行動や言葉の理解などで大きなハンデを負うことになります。地域のみなさんは日頃からコミュニケーションをとりあって、災害時には相手に適した誘導方法で早めの避難ができるように協力しましょう。

わが家の備え（安全点検）

地震対策は行政だけではできません。個人の生命や財産を守るためには、皆さん一人ひとり、あるいは家族が協力して日頃から備えておく必要があります。建物やそのまわりにあるもの、家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換えなどを行っておきましょう。

家のまわり、家の中の安全点検





大地震に備えた『わが家』の耐震診断

古い耐震基準で建てられている昭和56年以前の建物は、大地震によって大きな被害を受けるおそれがあります。大地震時に自分や家族を守るためには、地震に対して自分の家が安全かどうかを診断し、診断結果によっては耐震改修をする必要があります。

■「木造住宅の無料簡易耐震診断」

市では、パソコンソフトによる無料簡易耐震診断を実施しています。（住宅の現地調査は行いません）
診断対象…昭和56年以前に建てられた1階から2階建て木造住宅、延べ面積500平方メートル以下
問いあわせ先…市都市計画課内　電話042-989-2111

■「誰でもできるわが家の耐震診断」

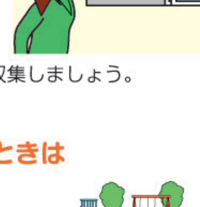
自分の家を簡単に診断するカルテとして、国土交通省住宅局監修のパンフレットが下記のホームページからダウンロードすることができます。
【一般財団法人日本建築防災協会ホームページ】
http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/kodate/wooden_wagaya.html

避難時の心得

万一、避難することになったら、冷静に状況を判断しながら、安全な避難を心がけてください。

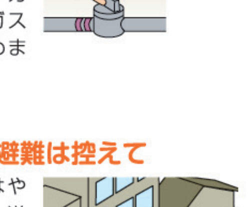
安全に避難しましょう

■ 避難の呼びかけに注意を



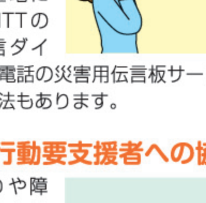
市や警察、消防等から呼びかけがあった場合には、速やかに従ってください。ラジオ･テレビ･インターネットなどからも正しい最新の情報を収集しましょう。

■ 電気・ガスの始末



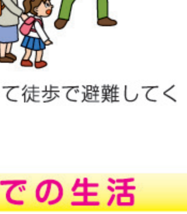
電気やガスが復旧した際、出火する危険性がありますので、避難する前には電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を締めましょう。

■ 家族や知人との連絡



公衆電話・FAXなどを使い、避難先や安否情報を伝えましょう。親戚や知人を連絡中継地にしたり、NTTの災害用伝言ダイヤルや携帯電話の災害用伝言板サービスを利用する方法もあります。

■ 避難するときは

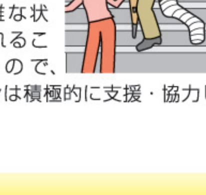


家族やとなり近所の人とも声をかけ合って、避難します。警察や消防、自主防災組織（自治会）のリーダー等の指示があるときは、それに従って徒歩で避難してください。

■ 車での避難は控えて

車での避難はやめましょう。道路をふさぎ復旧活動の妨げになることがあります。

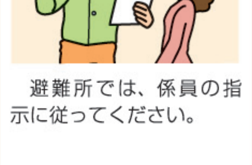
■ 避難行動要支援者への協力



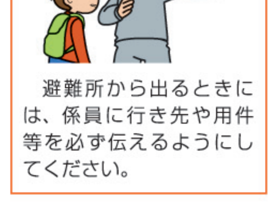
お年寄りや障害のある人などは、災害時の避難行動や情報収集・避難生活などで、困難な状況に置かれることが多いので、周囲の方々は積極的に支援・協力してください。

避難所での生活

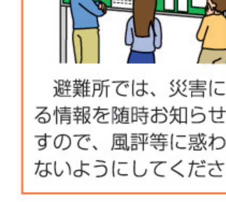
避難所では、多くの人との共同生活となります。限られたスペースの中での生活となり、食事、トイレ、洗面所など、普段の生活どおりとはいかないため、ルールを作り、お互いに協力し合う必要があります。



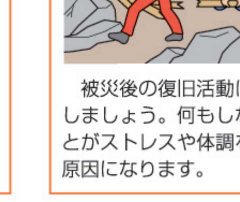
避難所では、係員の指示に従ってください。



避難所から出るときには、係員に行き先や用件等を必ず伝えるようにしてください。



避難所では、災害に関する情報を随時お知らせしますので、風評等に惑わされないようにしてください。



被災後の復旧活動に参加しましょう。何もしないことがストレスや体調を崩す原因になります。

「徒歩帰宅の心得 7カ条」

大地震が発生し、鉄道などがストップした場合、「**むやみに移動を開始しない**」が原則ですが、事情により徒歩帰宅する方のために、心得として次の7カ条を覚えておきましょう。

留まる
1. 連絡手段、事前に家族で話し合い
2. 携帯電話も、ラジオも必ず予備電池

知る
3. 日頃から、帰宅経路をシミュレーション
4. 災害時の味方、帰宅支援ステーション

帰る
5. 職場には、小さなリュックとスニーカー
6. 帰宅前には、状況確認
7. 助け合い、励まし合って徒歩帰宅